

# まえがき

日本惑星協会のメールマガジン「YMコラム」に週1回のペースで書き始めたのは1999年の暮れだった。2004年末までの分を『轟きは夢をのせて——喜・怒・哀・楽の宇宙日記』と題して出版していただいて以来、宇宙の分野では、「はやぶさ」の手に汗握る奮闘、国際宇宙ステーションの建設の進展、地球観測衛星「だいち」の活躍、天文衛星「すざく」「あかり」「ひので」の連舞など、注目すべき出来事が起こってきた。2005年5月には、念願の「宇宙教育センター」もJAXA（宇宙航空研究開発機構）内に設立された。

日本国内では、相も変わらず悲惨な事件が相次ぎ、大人たちがテレビで平身低頭する様が映し出されている。海外に目を向ければ、東西対立という構造が崩壊した後に、新たな戦争が各地で勃発しており、さまざまな不幸の種は絶えることなく再生産されている。グローバルに冷静に見つめれば、現在の人類が、伸びやかに美しい自然の中で文明を謳歌しているわけではなく、生き物の生きていく環境を破壊しながら、「いのちの尊厳」という共有概念を失いつつあることだけは確かなこととして感じられる。

地球上の生き物たちに明るい未来を残すための取り組みを急がなければならない。その核心は、いま育ちつつあり、あるいはいま生まれつつある子どもたちを、これまでとは異なる枠組みを創り上げるに相応しい人類の新世代に育て上げることである。大人たちが、その仕事に本気で向かい合わなければ、間に合わないかもしれない。

国内外を飛びまわりながら、「宇宙教育」と呼ばれる実践を通して、こうした思いを数々の人々と一緒に語り合ってきた。気持ちちは通じることが多い、しかし実践のプログラム、実践のスタイ

ルに関しては、すでに発見されているとは言い難い。宇宙という素晴らしく子どもたちの心に火をつけてくれる素材を、最大限活用したい。宇宙を軸にして未来を立派に担える新しい世代を生み出し、世界をリードする冒険心・好奇心・匠の心を兼備した若者たちを輩出させるために、みんなで腕を組もう——そうした気持ちをメールマガジンに書き綴ってきた。

このたび『人類の星の時間を見つめて——喜・怒・哀・楽の宇宙日記2』が、共立出版のご好意によって出版されることになった。人類進歩という道筋と思ってたどってきたこれまでの営みが、実は人類破滅の道だったという認識を、私たちは共有したくない。そのためにも、この小さな星にぎっしり棲むことになった人類の現在の時間を、明るい未来を建設するベクトルを持ってこの星の生き物たちとともに生きていきたいものである。

2008年7月 北京オリンピックをすぐそこに控えて

的川 泰宣